

作品「水野晩（日本の樹二本の根）」白山神社  
東吾町伊勢の森（中之町）部分  
2019.1.27年 個人蔵

# 写

# 実

# の

会期：2022年

7月29日【金】

8月31日【水】

開館時間：午前9時30分～午後5時  
入場は午後4時30分まで

●観覧料：一般1000円（前売 団体 シネテ800円）  
大学生700円（団体560円）  
高校生500円（団体400円）/中学生以下無料  
※団体は20名以上（分散入場を希望する場合あり）  
※シニア割引は65歳以上  
※身体・精神障がい者保健福祉 療育など各種手帳  
ご提示の方ご付添者1名は観覧料半額になります  
※前売券販売は一般のみとなります（前売券販売所）  
高岡市生涯学習センター（ウイングウイング高岡3F）  
アーツピア「高岡文化ホール、新川文化ホール」  
富山県教育文化会館、富山県民会館、富山大和  
商店街（元宿）高岡市美術館ミッドジアムショップなど

●アクセス「電車」JR北陸新幹線 新高岡駅からタクシー約10分  
JR あいの風とよま鉄道 高岡駅から徒歩約20分（北東約2km）  
JR 北見線 越中川駅より徒歩2分 万葉線 広小路電停から徒歩10分  
【バス】富山地铁バス 富山駅前行「中川」下車徒歩2分  
【車】能越自動車道「高岡北IC」より約15分、「高岡IC」より約20分  
北陸自動車道「小杉IC」より約20分、「高岡砺波スマートIC」より約20分  
※高岡市美術館地下駐車場（9時～18時）は2時間まで 駐車料金無料  
高岡文化の森駐車場（屋外）は 駐車料金無料  
※本展及び関連イベントについては、新型コロナウイルス感染症防止対策  
行いながら開催となります。開催状況は 防止対策については、  
あらかじめ当館ウェブサイトにて確認いただき、お問い合わせの  
うえご来館ください。会場内の混雑緩和のため入場をお待ちいただく  
ことがございます。

# ゆ

# く

# え

●休館日：月曜日（ただし8月15日は臨時開館）  
●主催：高岡市美術館（公益財団法人）  
高岡市民文化振興事業団、北日本新聞社  
●共催：高岡市  
●後援：富山県、富山県教育委員会  
高岡市教育委員会、NHK 富山放送局  
●制作協力：NHKエクスプローシア中部  
●高岡市美術館 〒933-0056 富山県高岡市中央1-1-30  
電話 0766-201177、ファクス 0766-201178  
ウェブサイト <https://www.tamuhof.jp>

現代の作家たち 生きること、写すこと

●出品作家（順に）松本浩二 加藤 幸夫  
安本亀八 室江古兵衛 室江宗和  
高村光雲 岡澤平 須賀松園 等  
北藤田中 佐藤洋一 前原冬樹  
宇佐美隆志 小谷元彦 橋本雅也  
●高岡市 木田健 深堀隆介  
水野晩 藤正子 秋山泉 牧田 横山 等

# 写実のリアルゆくえん

現代の作家たち

生きること、写すこと

●幕末から明治初めには変わった生人形の迫真の技は、当時の日本人はもとより、来日した西洋人にも大きな衝撃を与えました。明治二十年代に滞日した人類学者C.H.シュツラツツは「解剖的迫真性をもつて模る」生人形師の力量に感嘆しました。また、彼は、生人形が理想化も図式化もされず、ありのままの姿であることにも着目しています。●高村光雲も幼い時に松本喜三郎の生人形の見世物を見ています。後年、彼は西洋由来ではない写実を気付かせた存在として、松本喜三郎をはじめとする生人形師を敬慕しています。●ここで重要なのは、写実表現はそもそもこの国にあったということ。江戸期の自在置物や鍍金文化受容により新たに「美術」という言葉が生まれると生人形や置物は、その定義から外され、長く美術史の表舞台からは姿を消すことになりました。しかし、対象を生きている意欲は存続しました。それは、細部への過剰アニミズムも大きく作用していると思われる。そして新たに西洋由来の写実技法が加わった写実ブームが到来しています。現代帯びた作品を生み出しています。そして、旧来の伝統的な写実が息づいている証の流れが、いわば間歇泉の様に、息吹となって出しているのです。また、彼らの作品の中には近

が拮抗し、新たな写実を模る。このような傾向は、高橋由一まで遡ることができます。●本展は、松本喜三郎らの生人形、高橋由一の油彩画、明治期の金工作品を導入部として、現代の絵画と彫刻における写実表現を検証するものです。西洋の文脈のみではとらえきれない日本の「写実」が如何なるものなのか、またどのように生まれたのか、その手がかりを探ります。●出品作家(「彫刻」)松本喜三郎、安本亀八、室江吉兵衛、室江宗智、高村光雲、関義平、須賀松園(初代)、平櫛田中、佐藤洋二、前原冬樹、若宮隆志、小谷元彦、橋本雅也、満田晴穂、中谷ミチコ、本郷真也、上原浩子、七瀬綾乃【絵画】高橋由一、本田健、深堀隆介、水野暁、安藤正子、秋山泉、牧田愛、横山奈美

「橋本雅也(アヤダ)2019年 個人展

写することもでき

●彼らの作品を介して噴き替える作業であったことと想われます。●今までの作家も対象に没入することにより生々しさには先祖返りの要素も見受けられます。これは



↑深堀隆介  
《桜升命名 淡紅》  
2017年  
平塚市美術館蔵

索している姿勢も見出せます。

彼らの作品を介して噴き替える作業であったことと想われます。●今までの作家も対象に没入することにより生々しさ



↑室江吉兵衛《鼠置物》  
明治時代、富山市郷土博物館蔵

●松本喜三郎、安本亀八、室江吉兵衛、室江宗智、高村光雲、関義平、須賀松園(初代)、平櫛田中、佐藤洋二、前原冬樹、若宮隆志、小谷元彦、橋本雅也、満田晴穂、中谷ミチコ、本郷真也、上原浩子、七瀬綾乃【絵画】高橋由一、本田健、深堀隆介、水野暁、安藤正子、秋山泉、牧田愛、横山奈美



↑高橋由一《鯉梅花》1877年頃、金刀比羅宮蔵

●関連プログラム：①特別対談「リアルのゆくえの未来」8.20(土) 講師：土方明司氏(川崎市岡本太郎美術館館長)×江尻潔氏(足利市立美術館次長) コーディネーター：村上隆(高岡市美術館館長)／②学芸員によるトーク8.27(土) ※①②とも14:00～15:00、会場：地階ピートークホール、聴講無料、定員50名 ※申込方法(①②共通)：往復はがき1枚につき2名様まで申込可能(多数の場合は抽選)。往信裏面に希望イベント名、申込人数、各々の住所・氏名・電話番号を、返信表面に代表者の郵便番号・住所・氏名を記入の上、高岡市美術館「リアルのゆくえ展イベント係」まで送付 ※締切：①8.2(火)、②8.9(火) ●交通案内：【電車】JR北陸新幹線「新高岡駅」からタクシー約10分、JR・あいの風とやま鉄道「高岡駅」から徒歩約20分(北東約2km)、JR氷見線「越中中川駅」から徒歩2分、万葉線「広小路」電停から徒歩10分。【バス】富山地鉄バス・富山駅前「中川」下車徒歩2分。【車】能越自動車道「高岡北IC」より約15分、「高岡IC」より約20分。北陸自動車道「小杉IC」より約20分、「高岡砺波スマートIC」より約20分。※高岡市美術館地下駐車場(9:00～18:00)は、2時間まで駐車料金無料、高岡文化の森駐車場(屋外)は駐車料金無料



公益財団法人 高岡市民文化振興事業団



高岡市美術館  
TAKAOKA ART MUSEUM

〒933-0056 富山県高岡市 中川1-1-30  
Tel.0766-20-1177 Fax.0766-20-1178

当館の情報を発信中! 要チェック! /

Facebook: @takaokaartmuseum  
Twitter: @tam\_info  
Web https://www.e-tam.info/

